NDS 環 境 だ よ り Vol.19

※『環境だより』とは、 大阪エヌデーエスが環境への取り組みの一環として、環境について社外に好影響を及ぼすことを目的とし、社員、パートナーの皆様のご家族向けに作成したパンフレットです。

今回のテーマ ：
「　新型コロナ(COVID-19)禍におけるエコを考える　」

2020年は新型コロナの影響で皆さん色々と生活の変化があったかと思います。
次ページ以降で紹介するEMSジャーナルにおいても新型コロナ関係のコラムが多く寄せられました。その中の意見からメリット、デメリットを考察してみようと思います。

新型コロナ禍における環境への影響

新型コロナウイルスの影響で私たちの生活は変化を余儀なくされています。
環境面にも色々と影響が出ているようです。
＜メリット＞（詳細は右の記事を参照）
・生産活動の縮小による、CO2排出量削減
・電力消費削減
・ごみ排出削減

＜デメリット＞
・リサイクルの縮小
　－衣類の回収が制限されるなどの影響が出ているようです。
　　編集者の近所でもスーパーでの空き缶の回収が中止になりました。
　　リサイクル縮小の中でも可能な範囲でリサイクルされるよう
　　情報収集に努めたいです。
・レジ袋の再利用の縮小
　－衛生面からレジ袋を使い回さないという意見の方もいるようです。
　　いっそのこと、（弁当一つなど）数が少なければ、袋に入れず、
　　手に持つという選択肢も考えてみてもいいかもしれません。
・エコバッグ利用の禁止
　－アメリカなどではエコバッグの利用を禁止したところもある
　　ようです。衛生面からはこまめな洗濯を心掛けたいです。
・フードロスの問題
　－緊急事態宣言で飲食店に卸していた食材が余る傾向にあるようです。
　　通販サイトも色々あるようで、通常よりお得に購入できます。
　　積極的に利用してもいいかもしれません。

新型コロナ禍で私たちにできること

新型コロナ禍だから仕方ない、ではなく、新型コロナ禍の中で何ができるかを考えていきましょう。
「新型コロナ禍における環境への影響」ではEMSジャーナルで上がったデメリットの声に対して、編集者が個人的な意見を述べてみました。
新型コロナ禍だからと思考を止めずに、withコロナ、afterコロナの中でも環境保全のために自分なりにできることを考えて行動していきたいですね。

1

EMSジャーナルのコラム紹介

毎月1回発行される社内メールマガジンの『EMSジャーナル』では、社員が持ち回りで寄稿するコラム欄があり、環境に関連するさまざまな話題が掲載されます。そんな『EMSジャーナル』のコラムを、いくつか紹介します。
今年度は新型コロナ禍で環境が変わったことによるコラムが多く寄せられました。

ＥＭＳジャーナル　　Ｎｏ．１８１　　２０．９．２８発行

テレワークが環境負荷を減らす3つの理由
～ from 4Gr.（M. Kさん執筆）

新型コロナウイルスの影響で増加しているテレワークが環境負荷を減らす可能性があるという記事を読んだのでその内容を今回は紹介します。

その理由として大きく分けて「二酸化炭素排出削減」「電力消費削減」「ごみ排出削減」の3つが挙げられます。

まず「二酸化炭素排出削減」です。平均的な会社員の仕事関連の二酸化炭素排出量の90%以上は、通勤で占められています。
エコ通勤が提唱される中で車やバイクの通勤が減ることは環境によいと思います。

「電力消費削減」は会社にいるときより自宅にいるときの方が電力消費に敏感になる、というものです。
私も在宅時にはエアコンの代わりに扇風機を使う、可能なら自然光で作業するなど節約も兼ねてエコにつながる行動をしているなぁと改めて感じました。ただ、作業効率を下げないように注意する必要はあるかと思います。

最後に「ごみ排出削減」です。自宅で働くと会社で働く人に比べてテイクアウトをせずに自炊をする傾向があるため、包装ごみの削減に貢献するそうです。
私も出社時にはコンビニで昼食等購入していましたが、テレワークになってからはそれも減り自炊をできるだけするように努めています。

このようにテレワークは環境負荷という面ではメリットもあるので、出社した際にも応用できる点は継続したいと思います。

新型コロナ禍でCO2排出量が減っているのは、環境面でいいことかもしれません。しかしアフターコロナで元に戻ったら元も子もありません。
アフターコロナでもどう環境問題に取り組むかというところも、今後注目されるところです。

2

ＥＭＳジャーナル　Ｎｏ．１８２　　２０．１０．２８発行

サステナブルなファッション
～ from 5Gr.（Ｓ．Ｎさん執筆）

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、ごみとして出される
中古衣類が増加しています。
外出自粛などで自宅の掃除や家財を整理する家庭が増えたとみられ、
前年より１０トン多い７１トンが出されています。
一方、そうした中古衣類の輸出は感染防止のためストップしています。
衣料品はごみの大部分を占め、その比率は年々高まりつつあり、
問題になっています。

私が住んでいる大阪市でも衣類のリユースが難しくなり、
5月下旬から最近まで衣類の回収を中断していました。
私自身も自粛中に大掃除をし、衣服をはじめとする
様々なものを廃棄しました。
その中でも一番多く処分したものはやはり衣類でした。

流行の衣類を低価格で販売するファストファッションには
とてもお世話になっていましたが、
自宅に居ることが多くなり、服に対する認識が変化しています。
流行や価格に重きをおくのではなく、質や来シーズンも着ることが
できるかという点で購入を決めることが多くなりました。
また、新しいものでなくても良いものがあるということに改めて気づき、
初めて古着屋で服を購入し、今までの買い物の仕方を見直すきっかけに
なっています。

ミニマリストや断捨離のような「長く」使える「良い」ものを
「少ない数」所有するという生活スタイルがこれからは主流に
なっていくのではないかと思います。
10月から社内でのドレスコードが見直され、より自由に服装を
選択できるようになりました。
その中でサステナブルなファッションを選択の一つとして
取り入れてみてはいかがでしょうか。

低価格のファストファッションはワンシーズン着たら、
くたびれてしまうものもあります。
日々のお手入れで長持ちさせるのもいいかもしれませんが、
長く着れるものを最初から選ぶのも一つの手ですね。
私も安い靴を買ったところ、半年ぐらいで履き潰してしまって、
靴はそれなりにお金を出さないと長く履けないなぁと
近年実感したところです。

ＥＭＳジャーナル　Ｎｏ．１８３　　２０．１１．２７発行

まさかの“コロナごみ”!?
～ from 6Gr.（Ｋ．Ｋさん執筆）

2020年11月現在、新型コロナ(COVID-19)が猛威を振るっていますが、
この影響によりこれまでからは考えられなかった"意外な"ゴミ問題が
発生しています。

それはマスクや手袋などの“コロナごみ” が世界各地の海や川で
増加しているというものです。

新型コロナの影響で社会が一変しました。
今やマスクをするのは当たり前、
どこに行ってもアルコール消毒が必要です。
大阪エヌデーエスでも出社時にはマスクを着用し、
帰宅時には使用していた机をアルコール消毒することになっています。
新型コロナ対策で大量に消費されているマスクやアルコール消毒剤、
ペーパータオルなど、いわゆる"コロナごみ"が今年2月頃から
世界各地の海や川で目立つようになってきているようです。

私は感染対策という観点から見て"コロナごみ"そのものを減らすことは
難しいと思っています。
マスクやアルコール消毒剤は毎日使うものですし、どうしても使い捨てに
なってしまいます。
ですが、マスクやペーパータオルを分別して捨てたり消毒液の
空きペットボトルをリサイクルしたりといった事を行うことはできます。
一人一人が環境問題への意識を持ち、社会全体としても仕組みづくりを
していくことで環境への負荷を減らすことはできると考えています。
まずは日々のごみ捨てから、環境問題に取り組んでいきましょう。

コロナごみが出るのは仕方がない部分もあるかもしれませんが、それが
海や川で散見されるのは由々しき事態です。昨年の環境だよりでは
海ゴミについて記事を書きましたが、正しくごみが処理されるように、
本当に日々のごみ捨てから取り組みましょう。
（「一人一人が環境問題への意識を持ち」の部分、
本当にそうだと思います。）

■編集後記■
今年もジャーナルの執筆ありがとうございました。
今年は新型コロナ禍の中、どう環境に対して行動するか、というところに関心が集まったようです。

次年度も継続して発行しますのでご協力をお願いします。

『環境だより』に関するご意見、ご感想がございましたら下記へお寄せください。
ISO委員会：ems@nds-osk.co.jp

編集発行人：ISO委員会
発行年月：2021年3月